

## 1 つぎの おはなしを よんで もんだいに こたえましょう。

よるになると、まちの家や学校では、ポツと明かりがつけます。スイッチを入れるだけで、へやがいつきにあかるくなります。とてもべんりで、くらしにかかせないものですね。

でも、どうして明かりがつくのでしょうか。電気は、どこからやってくるのでしょうか。

電気は、はつでん所で作られます。川の水のちからをつかう「水力発電（すいりょくはつでん）」、風のちからをつかう「風力発電（ふうりょくはつでん）」、火で水をわかしてつくる「火力発電（かりょくはつでん）」など、いろいろな方法があります。

はつでん所で作られた電気は、長い電線をとおって、町や学校や家にとどきます。わたしたちはその電気をつかって、ランプやテレビ、冷ぞう庫や電子レンジなどをうごかしています。

もし電気がなくなったら、どうなるでしょう。夜はまっくらで本もよめません。テレビもつかず、冷ぞう庫の中の食べものもいたんでしまいます。電気は、わたしたちの生活をささえる大切なちからなのです。

けれども、電気をむだにつかうと、たくさんの方の明かりはけして、テレビをつけたままねいようになってしまう。ちょっとした心がけで、電気を大切にすることができます。



(1) 電気はおもにどこで作られますか。

- ① 学校
- ② はつでん所
- ③ 市役所
- ④ 公園

(2) つぎのことからを、本文の起こるじゅんばんに

- ① 家でスイッチを入れる
- ② はつでん所で電気を作る
- ③ 電気が電線をとおって町へはこばれる
- ④ ランプやテレビなどにつかわれる



(3) つぎの (1) から (3) にあてはまることばを、本文からぬき出して書きましょう。

はつでん所では、(1) (2) (3) などの力で電気を作ります。

- ① ( )
- ② ( )
- ③ ( )

